



チャレンジ！一歩前へ

郡山市立橋小学校
学校だより No.58
令和6年 1月25日
文責：校長 酒井 健

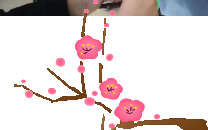
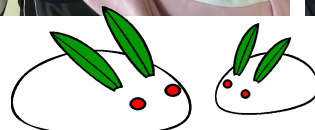
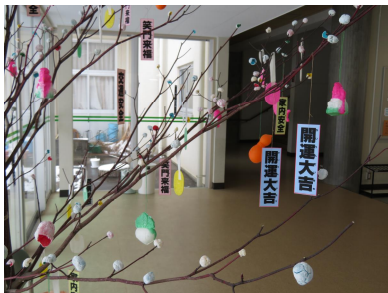
◇「だんごさし」を楽しんだ子どもたちです！

1月11日(木)、1年生と2年生の子どもたちが、伝統行事の一つである「団子さし」を体験しました。「団子さし」とは、古くからの小正月の風習で、正月行事の一つです。「みず木(団子の木)」の枝先の新芽を欠いて、そこに上新粉で練って丸めた団子を刺し、もち米のくだけ米の粉でできた鶴亀、宝船、米俵、恵比寿様、千両箱、大判小判を飾り付け、家の大黒柱に飾り付け、豊作や家内安全、一家繁栄、無病息災などを祈る行事であります。

この日、講師の先生としてご指導いただいたのは、昨年まで本校職員であった三浦由明先生です。三浦先生は、子どもたちに「団子さし」の由来についてお話をいただいたり、実際に団子作りの指導をしていただいたりしました。

各ご家庭では、なかなか「団子さし」などはできないと思います。学校において、このように日本の伝統行事に触れることができるということに大きな価値がある、意義があると思います。

ご協力、ご指導をしていただいた三浦先生に心から感謝申し上げます。



校長のひとりごと

日本には、昔から伝わる伝統行事があります。例えば、2月の「節分の豆まき」「恵方巻き」、3月の「ひなまつり」、9月頃の「お月見」・・・日本ならではの風情がある行事ですね。最近、ご家庭では、なかなかできないこともあるかと思います。私の小さい頃（50年以上前）は、父親から「大きな声でやるものだ！」という指導のもと、恥ずかしい気持ちで「鬼は外！福は内！」と叫んでいました。恵方巻きを食べていたという記憶はなく、ちょっと調べてみたら、恵方巻きの近年のブームは約35年前のコンビニで販売されたことがきっかけなんだそうです。ちなみに今年の方角は、「東北東やや東」だそうです。その方角を向いて、黙って黙々と食べてみますか！また、「お月見」にはかすかに思い出があって、すすきと団子を飾ってお月様を眺めていた記憶があります。

節分、十五夜、ひな祭り、端午の節句・・・現代の子どもたちにも、日本の風情に親しむ機会があれば、これからも長々と「伝統行事」は語り継がれていく・・・そんなふうに感じます。

